

久保田 信¹・新稲一仁²：和歌山県西牟婁郡白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所付近で採集されたオオサルバ（タリア綱，サルパ目）Shin KUBOTA¹ and Kazuhito NIINA² : *Thetys vagina* (Thaliaea, Salpida) collected near the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University, Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan

オオサルバ *Thetys vagina* (Tilesius, 1802) (タリア綱, サルパ目) は我が国では太平洋側全域に分布し, 最大で体長30cmほどに達する外洋性の終生プランクトンの一種である (西川, 1997, 2015). 本種はこれまで和歌山県西牟婁郡の田辺湾やその付近から記録は余りなされていない稀少種である

が (Yamazi, 1958), 近年の漂着個体と併せ, 世界最大級の個体が白浜町海域で採集されていたので記録する。

2001年3月19日には, 京都大学瀬戸臨海実験所・北浜に, 本種の大型 (体長10cmを超える) 1個体が漂着したのを久保田 信が発見した (久保田, 2006). 同・南浜で, 前者とほぼ同大の1個体が, 2014年3月25日に漂着した. この個体は尾状突起の長さが6cmで, 体長が18cmであった (図1). オオサルバは当該海域では, 冬季から初夏に稀に見られるとする過去の報告 (Yamazi, 1958) と上記の最近の2例は一致した。

同種に関しては, これらよりもさらに大型で, 体長が少なくとも30cmもある世界最大級と言える固定標本が, 瀬戸臨海実験所所蔵標本中に見つかった (図2). この標本には, 「1924年11月瀬戸」とのラベルが貼ってあり, 漂着個体かどうかは定かではないが, 今から1世紀程前の実験所創立2年後の発見で, 当時はプランクトンに詳しい川村多実二・井狩二郎先生が在職されていたが, 故人なのでこの件に関してお聞きすることはかなわない. 原田 (2013) による実験所年誌にも本件は記されていないものの, 貴重な記録に値するのでここに併せて記録した。

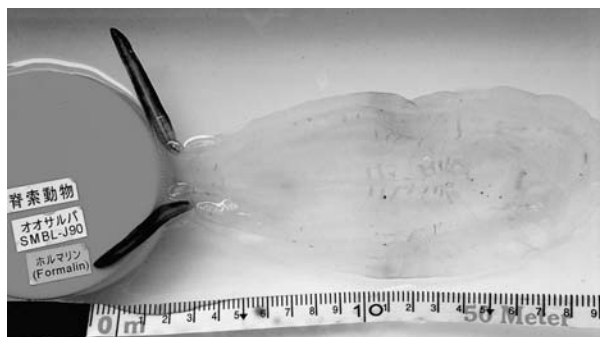


図1 京都大学瀬戸臨海実験所・南浜に2014年3月25日に漂着したオオサルバ



図2 京都大学瀬戸臨海実験所付近で1924年11月に採集された世界最大級のオオサルバ

引用文献

- 原田英司. 2013. 瀬戸臨海実験所年誌. 瀬戸臨海実験所創立90周年 (1922-2012年) 記念文集. pp. 1-44.
 久保田 信. 2006. クラゲ似の脊索動物「サルバ」. pp. 82-83, In “宝の海から”, 紀伊民報, 和歌山県.
 西川 淳. 1997. オオサルバ. p.1368, In 日本産海洋プランクトン検索図説, 東海大学出版会, 東京.
 西川 淳. 2015. オオサルバ. p.338, In 日本クラゲ大図鑑, 平凡社, 東京.
 Yamazi, Isamu. 1958. Preliminary check-list of plankton organisms found in Tanabe Bay and its environs. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 7 (1): 111-163.

(Received Sep. 30, 2017; accepted Oct. 15, 2017)

¹ 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459

¹ Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama Town 459, Nishimuro, Wakayama Prefecture 649-2211, Japan

² 〒649-2334 和歌山県西牟婁郡白浜町才野1622-222